



青春…まったく愉快的
ことですわね

飯田 里奈
愛媛県在住

◆私、今まで何してきたんだろう

KOCHI IYEO と出会った大学 1 年生の春。青年海外協力隊員になることが目標だった。選んだ学部は国際系。国際交流からいずれは国際協力へと、自分は進んでいくんだと信じていた。

しかし、気づけば心と体が乖離していた。要因は多岐に渡る。多感な時期特有の症状でもあっただろうし、無駄に高いプライドを持つ自分への嫌悪感でもあった。何だかよくわからない不安を受け、様々なことを自らで台無しにした。が、実際のところ、私は国際交流に向けてなかった。

でも活動には意欲的に取り組んだ。貧困というものを知るためフィリピンへのスタディーツアーに、そして内閣府主催の「世界青年の船」事業に参加し **KOCHI IYEO** のイベントにも携わり、高知大学の代表として中国安徽省へも行ったし、留学でタイにも滞在した。その上で、自分にはこれじゃないと痛感したときの虚無感たるや。

正確には、合っていないのではと感じつつも、誤魔化し続けたがために、蓄積され増幅した後悔をおびた絶望。私今まで何してきたんだろう。それはもう壮大に病みましたよ。

◆「牛」との出会い

この道ではないならどの道なんだと探していたとき出会ったのが「牛」だった。畜産の現場でのインターンを経て、北海道へ。酪農についての座学を受けながら牧場で働いた。

楽しかった。やりがいがあった。大好きな牛と日々時間を過ごせることが嬉しかった。そして、牛に対する想いが増せば増すほど、もっとこうしたい、こうすべきなんじゃないかという思考が働くようになった。

しかし雇われの身では分不相応で、虚しさが募った。

それなら自分の牧場を持てばいい。

その通り。

けれども驚くなかれ。

牧場の新規就農となると、スタートから億の借金を背負うことになる。

それは辛いということで、農家に嫁ぐという手段も頭をよぎった。

これは需要がありまくるんですね。



しかし、私にはどれも選ぶことができなかった。雇い主とも色々あって、牧場を辞めて実家へ帰った。

◆農業への憧れ

次に何をするかと考えたとき、農業をしてみたいと思った。自然農法の本を読み漁り、情報収集に没頭した。

だが、これも実行には移さなかった。

何故か。

一つは土地に縛られることに抵抗があった。農業を始めるなり、農家の嫁になるなりすると、どうしたってその地から動けなくなる。気が変わりやすい性質と、父が転勤族だったという背景もあり、固定されるのは嫌だなと思ってしまった。

二つ目は経営することに対する不安だった。が、核心は経営ではないような気がして、では何かと掘り下げてみた結果、お金だと気づいた。

お金をどう使えばいいのかわからない、どう動かせばいいのか、何に配分すればいいのか。そもそもビジネスにおいてのお金まわり事情がわからなかった。

◆公認会計士を目指す

ので、簿記の勉強を始めた。

簿記 3 級から始め、案外楽しいぞと流れるように進めていく中、公認会計士なるものの存在を知った。会計における最高峰の資格らしい。しかも難関と書いてある。興味が湧いて、そうだなと考えてみた。

牛は好きだけど、雇われの身ではできないことに限りがある。

一方、自分で経営する、もしくは農家へ嫁入

りとなると、現場でできることは増えるだろうが、自分はその地に縛られてしまう。

どちらも辛い。

では間接的に役に立つことはできないだろうか。例えば、会計のプロになって、会計の視点から酪農業に貢献する、そんなことは可能だろうか…

可能か否かはわからないまま、他の動機たちが働いて、結果公認会計士試験に挑んでいくこととなった。

ざっくり言ってしまえば、私は自分の力を試してみたかったし、高めてみたかった。

2024 年 12 月に、第一関門である短答式試験を受け、無事突破した。

凡人のため、大変に勉強しました。

次に待ち受けるは論文式試験。

この試験を突破したならば公認会計士試験に合格したということになる。

国際交流から「牛」へ、そして公認会計士へ。

まったく愉快的ことですわね。

※論文式試験では、短答式試験の受験科目(財務会計論・管理会計論・監査論・企業法)に新たに「租税法」と「選択科目」の2科目が追加される。

KOCHI IYEO HP



2025 年 2 月 1 日発行

発行者

高知県青年国際交流機構
(**KOCHI IYEO**)

会長 前田正也

☎ **090-9552-0022**

✉ **xiwang@yacht.ocn.ne.jp**